

令和3年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「自主」「創造」「明朗」、スクールモットー「The nearest duty」を掲げ、

ア 健康な心身を育み、自主自律の精神と実践力を養う

イ 思考力や判断力を伸ばし、世界を視野に進路を拓く応用、創造の力を養う

ウ 真理と正義を愛し、責任を重んじ、情操豊かで明朗な人間性を培う

ことを目指し指導の充実に努めている。

<School mottoについて>



The nearest duty
Spirits of Nambara

本校創設の父「南原 繁」が好んで若者に贈った言葉。大切なことは、身近にある今やるべきことに全力を尽くすこと。学生であれば、学問、芸術、スポーツなどに打ち込み、豊かな人間性を培い、教養を身につけること。将来を悩んでばかりいては、前進はない。毎日の積み重ねが人間の価値をつくと、若者を励ました。

2 学校の特徴

本校は、後に東京帝国大学総長となり戦後日本の復興や、6・3・3・4制等の戦後民主教育制度の確立に尽力した南原繁(当時射水郡長)の提唱により、大正8年に「農業公民学校」として開校し、令和元年度には創校百周年を迎えた。その間、多くの変遷を経て、平成7年度には普通科・農業科併設校から本県初の総合学科単独校(1学年5学級200人)に改編され、本年度は開設27年目を迎える。

教育課程では、2年次から進路に応じて「探究」、「美術・スポーツ」、「生活・ビジネス」の3系列を設定し、進路実現に向け基礎的な学力や技能等の向上に努めている。また1年次の「産業社会と人間」を「キャリアデザイン」、2・3年次の「総合的な探究の時間」を「プロジェクトⅠ・Ⅱ」と位置づけ、3年間を見通したキャリア教育・進路研究を推進している。

部活動では、柔道部が毎年全国大会に出場し伝統校として全国屈指の活動を行っており、また、ハンドボール部が北信越大会で3年連続3位、吹奏楽部が北陸代表として東日本大会に出場するなど活発な活動を行っている。

3 学校の現状と課題

平成25年度から公開授業研究等の実践研究を継続的に行い、アクティブラーニングの手法を取り入れた教員の授業力向上と生徒の学ぶ意欲を高め、主体的・協働的に授業に取り組む生徒の育成に努めてきた。本年度は、これまでの実践研究の成果を踏まえ、より一層の教員の指導力向上を図るとともに、本校が育てたい生徒像(小杉高等学校グランドデザイン)をもとに、学習のみならず、学校生活全般にわたって主体的・協働的に活動できる生徒の育成に努める。そして、生徒の多様な進路実現を着実に支援する指導の改善・充実に重点的に取り組むこととする。

[令和3年度重点事項]

ア 基礎基本の徹底

将来の社会生活の基盤となる知・徳・体の基礎的・基本的な能力・態度等の確実な定着

イ 実効性あるキャリア教育の推進

主体性を引き出し、着実な進路実現を図る3年間を見通したキャリア教育・進路指導の充実

ウ 多様な進路実現に向けた学習機会の充実

I C Tを活用したアクティブラーニング型授業の推進

エ 教員の指導力・学校の組織力の向上

実践研究の推進による教員の指導力・学校の組織力の向上

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特徴を生かした多様で効果的な学習活動を展開し、生徒の主体的な学びを引き出し、基礎学力の確実な定着を図るとともに、専門性や課題解決能力等を育成し、多様な進路実現を着実に支援する。
		計画	<p>【教育課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年次より「探究」、「美術・スポーツ」、「生活・ビジネス」の3系列を設定し、進路実現に向け系統性に配慮した選択科目を開設する。 ○1年次の「キャリアデザイン(産業社会と人間)」に加え、2・3年次に「プロジェクトⅠ・Ⅱ(総合的な探究の時間)」を開設し、3年間を見通した継続的・計画的なキャリア教育を推進する。 <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習目標を明確に示すとともに、<u>学ぶ意欲を高め主体的な学びを引き出す授業内容や授業方法を工夫</u>する。 ○生徒の学習の成果や意欲、態度等を適切に評価し、さらに学びたいと思う「<u>学びの好循環</u>」を引き出す<u>学習評価</u>を行う。 ○高大連携事業等を積極的に活用して、系列学習に深化と広がりを持たせ、専門性を高める。 ○公開授業や教員研修を計画的に実施し、授業の質を高めるよう学校全体で取り組む。 ○「学習と進路の自己診断シート」と「小杉高校GP」の評価を活用し、<u>生徒の学習がより主体的・自覚的なものになるように工夫</u>する。 ○各教科の課題の整理や集約を行うとともに、家庭学習時間の増加を図る。
(2)	学校生活 重点2 重点3	目標	<p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の定着を図り、心身の健康を自己管理することができる生徒を育成する。 ・ 集団の一員としての自覚を持ち、相手を思いやりルールを遵守する姿勢を育成し、互いに高め合える集団づくりを進める。 <p>【保健指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な環境に関心を持ち、住み良い環境づくりのために積極的に行動する生徒を育成する。
		計画	<p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集会時や登校時の呼びかけ指導等を通して、端正な身なりの徹底と挨拶の励行を図る。 ○生徒会や自律委員会と連携し、家庭でのインターネットやスマートフォンの長時間利用が与える健康被害についての理解を深めさせる働きかけを継続して行い、ルールやマナーの遵守を促す。 ○<u>時間厳守や定刻登校遵守の規範意識の徹底</u>を図り、遅刻を減らす。 ○個別面接などを通して生徒理解に努め、相互の信頼関係を深める。 <p>【保健指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒保健委員会と連携し、保健だよりや掲示物により定期的に情報提供や啓発を行い、<u>生活習慣と心身の健康との関係を自覚させ、自己管理能力の向上</u>を図る。 ○ごみの分別点検や美化週間を通して環境保全意識を培い、自主的に環境を整えようとする態度を育てる。 ○特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた適切な指導を行う。

項 目		目標・方針及び計画	
(3)	進路支援 重点4 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特色を踏まえ、3年間を見通した計画的、継続的なキャリア教育や進路指導を行い、生徒一人ひとりが主体的に進路を選択し着実に進路実現を図るよう支援する。
		計画	<p>【教育課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年次の「キャリアデザイン(産業社会と人間)」に加え、2・3年次に「プロジェクトI・II (総合的な探究の時間)」を開設し、<u>3年間を見通した計画的・継続的にキャリア教育を推進</u>する。 <p>【キャリア教育・進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年次の職場体験学習や2年次の県外進路研修等、職業観や就業観を培い、<u>進路意識を高める活動をより効果的に実施</u>する。 ○各学年・学期等の時期に応じた重点課題を明確にし、<u>個別面談を継続して行うことにより、個に応じた的確な指導を行う</u>。 ○教員による高大接続改革に係る研究を積極的に進め、生徒の実態に応じた指導を工夫し、大学入試に対応できる学力を着実に育成する。 ○3年次では、生徒の進路選択に応じた個別指導や補充学習ができるよう全教職員による指導体制を整える。 ○本校における従来のキャリア教育を検証し、生徒の成長を図る実効性のある指導プログラムや体制を整える。
(4)	特別活動 重点5	目標	<p>【特別活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動や学校行事の企画・運営に、生徒会や委員会などが連携して組織的に取り組むことにより、生徒の自主的活動の活性化を図るとともに、より良い学校生活を築こうとする実践的な態度を育てる。 ・ 生徒が主体的に取り組むボランティア活動の機会を多く設け、人間的な成長を図るとともに社会参加に積極的に関わる姿勢を培う。
		計画	<p>【特別活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動が連携して活動を企画し、組織として生徒会活動をより活性化させる</u>ことで、生徒会の企画力や実行力を高め、全校生徒の所属意識や達成感を向上させる。 ○校外清掃活動や地域行事への参加など、<u>ボランティア活動に関する情報を多く発信し参加機会を増やす</u>。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 小杉高校アクションプラン - 1 -	
①重点項目	学習活動（学びに向かう生徒の育成）
②重点課題	主体的・対話的で深い学びを引き出すための授業改善と生徒への支援
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びを引き出す授業研究に取り組むため、年2回の「公開授業WEEK」と、外部講師による「公開授業研究会」による研究・協議を通し、生徒からの授業評価も含めた授業改善に取り組んでいる。 教務部に情報・ICT教育研究係を設置することで、今年度より生徒に一台ずつ配布されるタブレットパソコンを授業で有効に活用できるよう研究を進めている。
④達成目標	新しい生活様式の中で主体的な学習の取り組みを行うにあたり、下記方策の各項目で前年度と比較し向上が見られること。
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> 「授業公開 WEEK」で新たな研究課題に向けた各自の授業実践により、生徒の自己評価や授業評価、教員の自己評価を通じて、授業の改善と指導力の向上を図る。 新しい生活様式の中でも効果的な授業を行うため、Google Classroom等の教育用クラウドプラットフォームや ICT 機材の有効な活用方法の研究を重ね、教員の ICT 活用力の向上を図る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 小杉高校アクションプラン - 2 -		
①重点項目	学校生活（生徒指導）	
②重点課題	高校生としてふさわしい基本的な生活習慣や態度をしっかりと身につける	
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> 昨年は各学年での1年間の皆勤（遅刻、欠席、早退なし）の割合は約38.3%であった。（1年40.5%、2年39.1%、3年35.3%） 時間厳守の意識が年々少しずつではあるが身につけてきており、ここ3年間で、皆勤生徒の割合が10.2ポイント上昇した。社会に出て行く上で時間を守るということは信頼性のある人間関係を築く上でも大切なことであり、その意味合いからも自己管理ができるように促す。 スマホでのネット利用やSNS等の使用時間が2～3時間の生徒が多い。なかには4～5時間以上利用している生徒もいる。スマホやSNSにのめり込んで、睡眠不足・学習に悪影響があったと感じる生徒もいる。 	
④達成目標	各学年で1年間皆勤 （遅刻、欠席、早退なし）の生徒の割合	スマホ使用について考え、改善できた生徒 の割合
	40%以上	60%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が指導場面において、生徒の時間厳守や服装に対する意識を啓発し、学校全体としてルール、マナーを守っていこうとする気運を高める。 生徒会執行部や自律委員会を中心に全校生徒に向けアンケートなどを利用して、「スマホ使用ルール」を互いに指摘し合ったり、統一HRなどでスマホの使用について考えとともに、家庭でのスマホ利用についても考える機会を設けたりする。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 小杉高校アクションプラン - 3 -	
①重点項目	学校生活（保健指導）
②重点課題	基本的な生活習慣の確立と生活時間の自己管理能力向上
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> 健康セルフチェックの結果では、睡眠、スマホ使用について改善したいと答える生徒が依然として多いが、実際に「改善できなかった」数値が一番高いのもスマホ使用である。全体として長時間使用の傾向は進んでいる。 改善するために計画的に時間をコントロールしようとか、その手法を考えようなどと努力している生徒は少ない。 コロナ禍の中、手洗い等体調管理を意識する生徒が増えた。
④達成目標	健康的な生活を目指し生活時間を改善できた生徒の割合
	75%
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の健康観察や定期的な健康セルフチェックを通して自分の生活習慣と時間の使い方を見直し、自ら考え改善できるように促す。 生徒保健委員会の主体的な活動を充実させ、生活時間改善の意識を高める。 学校保健委員会や健康講話、保健だよりを通して生活習慣の重要性や時間の使い方について考える機会を増やし、学校と家庭の連携に努める。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 小杉高校アクションプラン - 4 -			
①重点項目	進路・キャリア支援		
②重点課題	3年間を見通したキャリア教育の推進と進路実現の充実		
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> 「手帳」は学年ごとの取り組みはあるものの、小杉高校全体の共通の活用法は確立されていない。 新入生オリエンテーションにおいて、「手帳」の活用について説明し、集会や授業に携行させている。 具体的な進路目標の決定が遅い生徒や将来やりたいことがわからない生徒がいる。また、具体的な目標が定まっても自主的、意欲的に学習に取り組まず、十分な準備のないまま上級学校の入試に臨む生徒も見られる。 		
④達成目標	全学年 高校生活を過ごす上で手帳を活用できたと考えられる生徒の割合	1・2年生 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」が、 系列選択や自分の生き方・考え方などの参考となつたと考える生徒の割合	3年生 進路決定先に満足している生徒の割合
	70%以上	80%以上	80%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通したキャリア教育を計画的、継続的に行い、職業観や就業観を育み、進路意識の向上をはかる。 「手帳」を活用することにより、時間の使い方や自分の行動を振り返る習慣を身に付け、自ら学び主体的に行動できる生徒を育成する。 継続的な個別面談により、早期に進路目標を設定したり、学習意欲を喚起したりする。また、小杉高校GPの8つの力を育成し、GP自己評価によって生徒の実態を把握し、面談や進路指導に生かすことで、生徒の能力を伸長し、多様な進路実現を目指す。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 小杉高校アクションプラン - 5 -

①重点項目	特別活動	
②重点課題	特別活動やボランティア活動など生徒の自主的な活動の充実	
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やホームルーム活動、委員会活動において生徒会役員やクラス委員を中心に新たな企画の提案や取り組みを意欲的に行っており、主体的に活動する機会が増えている。 ・部活動やボランティア活動に熱心な生徒がいる一方で、特別活動が学校生活を充実させたという意識が低い生徒が1割以上いる。 	
④達成目標	学校行事や各種特別活動に自主的に取り組み、自己達成感を持つ生徒の割合	学校生活を充実したものにするために、実際に行動したことがある生徒の割合
	90%以上	90%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動などが連携して活動を企画し、組織としての生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。また、体育大会、学校祭等学校行事では「一人一役」とし、役割意識を高めるとともにリーダー育成に努める。 ・部活動に関する問題点を洗い出し、自主的な運営方法など改善策について検討する。 ・校外清掃活動や地域行事への参加など生徒が人々の役に立ち喜ばれる機会を設けるとともに、ボランティア活動に関する情報をできる限り発信し参加する機会を増やす。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)